

チームビルディング途中経過報告

10/1の中央リーグVS日置西が終了し、チームによって試合消化数に差はあるものの現在百舌鳥FCは中央リーグ3位につけています。

まだ優勝の可能性は残っていますが、自力優勝の可能性は潰えている厳しい状況です。

ですが、現在のチーム状況はとても良い状態にあると考えています。

前回の「チームの成長法則4つのステージ」で説明させていただいたステージを着実に前に進めることができています。

そのステージを前に進める成長を遂げた試合での出来事、そしてこれからの展望をご報告したいと思います。

①9/4中央リーグVS福田 1 VS 1 PK 3 VS 4 PK負け

②10/1中央リーグVS日置西 2 VS 1 勝ち

この二つの試合がとても大きなターニングポイントになりました。

①9/4中央リーグVS福田 1 VS 1 PK 3 VS 4 PK負け

この日の試合はとても暑く、前半に1点を取られる苦しい展開でした。しかも百舌鳥小学校特有の狭いグラウンドでの戦いであり、悲しいことに百舌鳥FC Aチームは狭いフィールドでの戦いを苦手としていて、トレマ等でも狭いところでは負け越していました。しかし、後半終了間際に起死回生の同点ゴールが決まり、PK戦となり負けてしまいました。

この試合においてとても重要だった点は、チームが（ベンチメンバーも含めて）初めて1つになった試合だったことです。

先の中央リーグVS野田の時はチームが初めて格上と思われるチームから勝って成功体験を得た後、6/18中央リーグVS新金岡で大敗を喫し、ストーミングから脱却しきれていなかったと考えています。中央リーグVS新金岡からVS福田の約3ヶ月の間にはさまざまなことが起こりました。

- ・真田山でのフットサル大会優勝
- ・祝勝会
- ・堺フェスタ
- ・主力の怪我・地域イベント・コロナ等での欠席

嬉しいこと、悔しいこと、ピンチやチャンス、様々な出来事が起こった3ヶ月間でした。

これらの経験はチームとして成長していく過程でどれも欠かせないものとなりました。真田山でのフットサル大会優勝はチームに勇気と希望を与えてくれました。その後の祝勝会ではチームで勝った喜びをみんなで共有し、勝ちへの欲望をさらに高めることができました。堺フェスタでは思うような試合展開に出来ず苦しむ場面が多かったですが、そこに新たなヒーローの誕生がありました。

特に主力の怪我・地域イベント・コロナ等での欠席で起こったチームの「ピンチ」はとてもいい影響を与えてくれました。

現状考えられる100%の状態でも毎回戦えるとは限らないのはプロでも同じです。それによってチームの戦い方が日々変わり、新しい戦い方に挑まざるを得ない状況になりました。その経験で得た成功と失敗が問題点と強みを浮き彫りにしてくれました。そして何より、「どんな状況でも勝つ」

「絶対勝ちたい」という強い意志がみられました。そしてそれを示してくれたのは今までは陰に隠れていた選手達でした。今まではキャプテン達が強く引っ張っていく印象だったチームの雰囲気、選手全員でチームを盛り上げていく雰囲気に変わりました。そして、今まで活躍の少なかつ

た選手が台頭していき、チームの完成形の片鱗が見えた試合が9/4中央リーグVS福田でした。ゴールを決めた選手は1人ですが、ベンチを含めた全員が最後の一瞬まで諦めずに声を出していました。一番疲れているはずの時間で選手は精一杯走り続けボールを繋ぎ、途中出場の選手もすぐにゲームに馴染みました。そんな後半終了間際のゴールはチーム全員でもぎ取った1点であり、宝物となりました。「チームが一つになる」瞬間を得た百舌鳥FC Aチームはこの日からチームは次のステージである「③ノーミング」へと移行するチャンスを手に入れました。

②9/4中央リーグVS福田から10/1中央リーグVS日置西

ここからはまたしばらく思うようには勝てない日々が続きました。JSLリーグでの3位グループリーグの敗退、得点力不足など様々な問題に直面しました。しかし、以前にも増して試合へのモチベーションは高く、悔しさも苛立ちも強くなっていきました。そして何より、選手がみんな同じ顔をしています。悔しい時も嬉しい時も選手は同じ感情を抱くようになってきていました。つまりそれはチームの勝ち負けが「他人事」から「自分事」になってきた証だと考えています。

そこで百舌鳥FC Aチームは9/18JSLリーグVS高原以降、チームでの話し合いの機会を多く設けました。試合後に話し合いをしてもらう中で今まで意見を言わなかった選手が意見を言うようになっていました。また、選手個人スキルとしてはいわゆるサッカーIQが全体的に高くなってきたことにも気づきました。順序立てて具体性のある話ができる選手が増え、私の采配に対する意見も多くなりました。そこで9/25に座学を開き、必要なサッカースキルとチームにとって不足していること、チームビルディングの現状についてを講義しました。対話形式に行ったサッカー講義は今まで行ってきた座学の中でも異質なものとなりました。対話形式での講義は初めてだったのでなかなかはじめは意見が出にくかったですが、集中を欠いている選手はおらず、一つレベルの高い講義となりました。

そうして迎えた10/1中央リーグVS日置西。直前のトレマVS桜塚では思うようなサッカーが出来ず引き分けてしまいました。しかし、その後ミーティングを行い、簡単に反省点を洗い出した後「チームに頼る」と言うことを意識するようにしました。そして全てを忘れて思いっきり「楽しむ」とアドバイスし、そうしやすいように試合中自由に選手の配置を変えても良いと言いました。

この数ヶ月間、選手達は考えて考えて考えてサッカーをしていたはずですが、座学、話し合いで意見を言い合い、頭にそれを叩き込む。そんなふうには頭を最大限に使うサッカーをしてきました。そのマイナス要素としてプレーの度に迷いが生まれ、思うようなサッカーが出来ずに悔しい思いをする。そこまで選手達は真剣にサッカーに取り組んでいました。そしてその経験が勝つために楽しさの犠牲を厭わないほどの強いメンタリティと集中力を手に入れていました。

しかし今度はベストを考えるあまりにプレーの迷いが出てしまい、シンプルに考えることが出来なくなっていました。

そして、試合開始となり、私は早速チームのみんなに驚かされてしまいました。

自由に選手の配置を変えてもいいと言ったものの、まさか試合開始時からその配置を変えられ、かなり攻撃的なフォーメーションで試合開始しました。

試合中に自由にして良いよと言ったものの、まさかの試合開始時から変えられてしまいました。試合前の作戦を完全フル無視されてしまったのです！

しかし点を取る気満々の選手の意志が伝わるフォーメーション、その溢れんばかりのメンタリティと集中力を得たチームは、「楽しむ」「チームに頼る」と言うシンプルな思考のみで戦うことで、無意識に考えられるようになり、ボールは面白いようにつながり、声も今までにないほどよく出て、攻撃的で相手を圧倒していました。

辛く苦しい時期を考え抜いたからこそチームが一つの生き物のように試合を支配していました。ベンチにいたある選手が試合開始直後、ボールを優位に回し出した瞬間に「勝てる気しかせえへん」と呟いたことがとても印象的でした。

それを言った時、他のベンチメンバーも「分かるわー」と同調し、私自身もそう思いました。

今まで私自身そう感じた試合は一度もありませんでした。

だからこそこの試合の勝利は今までの勝利とは全く違う価値があります。

チームの中の全員が「勝てる気しかせえへん」だったのです。5年生時代を含め過去全敗の日置西相手に全員が試合開始直後にそう思ったのです。

もちろん選手達は今までもモチベーション高く戦っていました。しかし、どこかで負ける恐怖とも戦っていて苦しんでいたのかもしれないということに気付かされました。

チームがストーミングから今ひとつ抜け出し切れない状態にある中、不安でも強く前を向こうとしていた選手の思いを考えると頭が下がります。

試合は前半に1点先制したものの、その後すぐに1点取り返され同点のままハーフタイムに入ります。ハーフタイム中の選手はとても集中していました。何も指示せずともそれぞれの思うことを話し合っていました。私はまともな指示は一切出していません。ただそのみんなの考えをこっそり聞いて勝ってこいと言って送り出しただけです。そして後半は序盤に拮抗するも再び流れを掴みボールを優位に回します。途中交代で選手を1人入れ替え、そのままゴールを決め決勝点となり試合終了。百舌鳥FC Aチームは、「グループ」から「チーム」へと、大きな大きな一歩を踏み出しました。

ここからは、これからの展望についてお話しさせていただきます。

百舌鳥FC Aチームは「グループ」を脱却し「チーム」へ成長し、ノーミングに入りました。

そこから目標である『優勝する』『強いチームに勝つ』という目標を叶えるため、最も必要なことがあります。それは前回のチームビルディングでも説明した「行動規範（スタイル）」です。

①チームの行動規範(スタイル)を作り、徹底する。

百舌鳥FC Aチームはチームとして成長し、全員が目標に向かって同じ方向を向いてサッカーに取り組めるようになりました。「ストーミング」の辛くモヤモヤとした時期を経験しました。その時期に選手間でコミュニケーションを取り、問題を解決していく力を養いました。そして、その過程の中でチームのことを「自分事」として捉えられるようになりました。

その後に待ち受けていることは逆戻りしないための確固たるチームの意志が必要になってきます。その意志を行動規範（スタイル）として表明し、チーム全体で徹底することが必要になってくるのがこの時期です。

それは過去に得た成功体験やストーミングの時期にぶつかった問題などがヒントとなります。

その中で選手達にサッカーでのスタイルを考えて掲げたいと思います。

この行動規範(スタイル)は企業で言うところの企業理念や方針、「～の〇箇条」のようなものですが、普通の組織やチームでは無用の長物になってしまうことがほとんどです。

壁に掛けられた理念や方針はただの景色に成り下がってしまっていることが多いと思います。

しかし、このチームはストーミングでどん底を経験し、チームを他人事から自分事へ変換することのできた選手みんなで得た成功体験があります。

だからこそ壁に掛けられた景色になるのではなく、みんなで使うものに変換できます。

チームの行動規範（スタイル）を確立し、それを徹底することでより成長し、次のステージへと向かうと考えています。

②アシスト力

行動規範（スタイル）によって、選手が規律を守りながらも自由に動ける環境が整ったところで次に必要になる力はアシスト力です。

今までは自分の役割をこなすことで精一杯だったと思います。これも自分と仲間の役割を理解してきた段階に入っています。今度からは自分の役割を超えて仲間の仕事をする必要があるになってきます。ここ最近の試合で随分とこの力は養われてきていますが、DFはゴールを守るだけ、FWは点を狙うだけではなく、全員が少しずつ役割を超えた仕事をする事で、チームの力は足し算の100%ではなく、掛け算の100%以上の力を発揮することができます。

これまで、「コミュニケーションを取る」ことや「他人事から自分事へ」の取り組みが、仲間の理解に繋がり、仲間が求めていることや、仲間に対して気の利いたことができるようになってきています。今まで自分が（または他者が）解決しなければいけないと考えていた問題がチーム全体で解決することに視点が置き換わってくることにより大きな問題を解決する能力にもつながってきた結果だと思っています。自分と他者の仕事を理解しているからこそ全体の問題に置き換え、解決することができる力がついてきています。

③第三者の評価を得る

このチームの行動規範をより確固たるものにするために必要なことがあります。それはその行動規範（スタイル）に沿った行動で結果を出すことです。そしてその結果とは勝ち負けだけでは評価できません。観ている人たち（第三者）から評価されるチームになることが必要です。チームの行動規範（スタイル）に共感し、応援してくれる人が増えることが欠かせません。第三者から高い評価を受けるチームになることで、選手達は自分達の方向性に自信を持つことができます。

しかしまだ足りない部分があります。それは「強者の心得」だと思っています。もう弱いチームではないということをよく理解し、強いチームだからこそその振る舞いや心構えがまだまだ第三者の評価を得るに足りない部分であると思います。ここ最近の百舌鳥FC Aチームと中央リーグで試合をしたチームは百舌鳥FCのことを弱いと思うチームはないと思います。そういう評価を得ているはずなのにまだまだ試合の入り方に問題があったり、メンタル的に弱い部分がまだあるように感じます。他チームの評価に対して自分達の評価が低い面があると思います。もう中央リーグクラスでは成績からも大番狂わせとは言われなくなってきていると思います。そうなれば、「強者の心得」を知り、試合の内外でもそれを感じさせることが、第三者の評価を得る大きな要因であると私は考えています。

今でも近くで観てくれている保護者の皆様にはこのチームの変化をすでに感じてもらえていると思います。しかし、まだまだこのチームは成長します。相手チームが勝っても負けても、敵ながらあっぱれと思えるチームになることでより自分達の行動規範（スタイル）を肯定し、自信につながります。チームとしての成熟するのはまだまだこれからです。保護者の皆様には、その成長を間近で見て喜んでいただきたいですし、さらに良いチームになるという期待を込めた厳しい目でチームを評価してもらえるようお願いしたいと思います。

最後に

このチームは多くの壁を乗り越えてここにきました。現在百舌鳥FCは自力優勝は消滅したものの中央リーグで3位につけています。正直私はチームビルディングに取り掛かるまで、この時期にこんな結果になっていることは想像もつきませんでした。10/1中央リーグVS日置西ではノーミング

の先にあるトランスフォーミングを感じさせてくれるような試合を観せてくれました。ですが、まだまだ高いレベルにあるチームとの戦いが待っています。その時も同じように「勝てる気しかせえへん」試合をしてくれることを信じています。このチームのコーチをしていて本当に楽しい瞬間があります。それは自分の想像を超えた成長をみせてくれる瞬間です。いい意味での裏切りと「まさか！」が起こる瞬間が最高です。選手達がそれだけサッカーを好きでいてくれて真剣に取り組んでいるからこそ出会える瞬間なんだと思います。この感動的な瞬間を、私も含めたイチ百舌鳥FCサポーターとして多くの皆さんと喜びを共有したいと思います。